

# 人文研紀要

第34号～第36号(1999年)

## ◆第34号—1999年(1999年9月発行 A5版193頁)

Scandalを通して英訳の可能性と限界を見る	Gary W. CANTOR
複文研究メモ(3) —連体節・連用節—	野田 時寛
中央大学の留学生に対する文章表現指導についての覚書Ⅱ —授業形態の一部改変と提出物にみる特徴を中心に—	大高 知児
促音の指導法について	飯野 清士
冥府考 1	渡辺 博
フォークロア再論(Ⅱ) —馬琴考—	加藤 正泰
国民性論(四) —誕生原理の理論—	世良 正利
中国革命と外国勢力 —孫文の対外宣伝(下)—	深町 英夫
李朝の交隣政策とその展開 —土木の変期の明・女直・日本との関係を中心に—	荷見 守義

◆第35号—1999年(1999年9月発行 A5版262頁)

クリアランスとゲール語の詩	小菅 奎申
『速歩の短詩』に現れる死者の騎馬行列 —「荒獵師」神話の視点から—	渡邊 浩司
イエイツの英雄をめぐる幻想 —『クーフリンの死』覚書—	木村 正俊
英国詩人墓碑銘拾遺集(IV)	岡地 嶺
Emily Brontëの詩 —'No coward soul in mine'をめぐって—	土屋 繁子
ワーグナーの芸術と思想 —ヴァルキューレー—	三富 明
群衆社会の病理 —デュレンマットの『貴婦人の帰郷』論—	荒木 詳二
ゴヤにおける世紀末性 —『黒い絵』をめぐって(二)—	小山田 義文

◆第36号—1999年(1999年9月発行 A5版212頁)

The Place of Opera	Graham BRADSHAW
Endlösungen, Menschheitsverbrechen. Zur Genese und Kritik des Genozidbegriffs	Uwe MAKINO
初期ブルシェンシャフト運動と反ユダヤ主義	飯森 伸哉
ホーフマンスタールのシュティフター受容	戸口 日出夫
ビーダーマイヤー期のヴィーンとヴィーン民衆(1)	篠原 敏昭
ネストロイ劇における名誉の諸相 —『取るに足りない男』の特異性—	荒川 宗晴
コスモポリタンとして生きるとは —作家イリヤ・トロヤノフの場合—	鈴木 克己
『ヘンリー・アダムズの教育』エピローグ —晩年の10年間—	岡本 正明
『自殺クラブ』について	野呂 正